

新大

キャンパスライフをもっと豊かに

広報

| 特集 |

博士課程のことは PhDリクルート室まで!

Interview!! 自分の居場所 学生編/卒業生編

教えて! あなたのゼミ・研究室 法学部 宮森 征司 准教授

チャレポ!! (Challenge & Report) 新大書道同好会

ひとりdeli キッシュ



No.228
[2023年 冬号]



真の強さを学ぶ。

新潟大学
NIIGATA UNIVERSITY





博士課程のことはPhDリクルート室まで!

今回の特集では、主に博士後期課程や博士研究員を対象として様々な支援を行っているPhDリクルート室取材しました。みなさんが今後の進路を考える上で参考になればと思います!



実際にPhDリクルート室のサポートを受けながら博士課程で学んでいる学生さんたちをご紹介します♪



光学実験に魅了されてここまで来ました。

- 現在の専攻
新潟大学大学院 自然科学研究科 電気情報工学専攻
- 現在行っている研究
岐阜県神岡にある重力波望遠鏡KAGRAの安定的な運用のための鏡の角度制御の開発。

ヒロセ チアキ
廣瀬千晶さん

博士課程に進んだ理由

- 光学実験を続けたいと思ったから。
- 修士課程で修了する予定だったが、企業で光学実験をしているところは少なく、光学実験を続けるために、博士課程に進学することを決断した。

PhDリクルート室から得ているサポート

- イベントを通じた他分野の学生との交流。互いに研究活動の日々を共有し、研究の励みになっている。

将来の進路について

- アカデミアに残り研究を続けたい。できるのであれば大学教育に関わりたい。同じ地方大学の学生をサポートして、一人でも多くの人に研究の面白さを伝えたい。

- 経歴**
- 2013年4月～ ●山形県立米沢興譲館高校 理数科
 - 2016年4月～ ●新潟大学 工学部 電気電子工学科
 - 2020年4月～ ●新潟大学大学院 自然科学研究科 電気情報工学専攻 博士前期課程
 - 2022年4月～ ●新潟大学大学院 自然科学研究科 電気情報工学専攻 博士後期課程
 - 11月～ ●新潟大学大学院 特別研究派遣学生
 - 東京大学 宇宙線研究所 受託学生

Check!
p.7~p.8での卒業生インタビューでは博士課程を修了された方を取材しています。そちらもぜひチェックしてください!



モットーは理不尽なスポーツ指導をなくして全ての人々、老若男女問わずに、豊かなスポーツライフを!

- 現在の専攻
新潟大学大学院 現代社会文化研究科 人間形成研究専攻
- 現在行っている研究
運動方法学、スポーツバイオメカニクス、卓球競技

ミヤザキ コウイチロウ
宮崎孝一郎さん

博士課程に進んだ理由

- 最初は考えていなかったが、お世話になっていた卓球部の先生に「宮崎お前は大学院に行って、いろんなことを学んで、力をつけて社会貢献をしろ」と言われ、そこで初めて大学院を知った。
- 自分を俯瞰して見たときに「知識も力もない。こんなんで、社会に出てもやっぱり活躍できないな」と思った。そこで、もっといろんなことを学んでスポーツ界に貢献したいと思った。

PhDリクルート室から得ているサポート

- 博士課程の支援プログラム(未来のライフ・イノベーションを創出するフロントランナー育成プロジェクト次世代生)
- リクルート室や院生会を通じた、他の博士課程の学生との交流
- 相談

将来の進路について

- 卓球を皮切りにして、いろんなスポーツのコーチングを普及させていきたい。
- 大学に残って研究したい。スポーツに関わる可能性のある次世代の人たちに、今後のスポーツのあり方や研究を伝えていきたい。

- 経歴**
- 2013年4月～ ●東京学館浦安高校
 - 2016年4月～ ●明治大学 文学部史学地理学科 地理学専攻
 - 2020年4月～ ●新潟大学大学院 現代社会文化研究科 現代文化専攻 博士前期課程
 - 2022年4月～ ●新潟大学大学院 現代社会文化研究科 人間形成研究専攻 博士後期課程
 - 新潟大学 非常勤講師 (健康スポーツ科学実習、データサイエンス基礎演習)

スタッフ感想

博士後期課程は研究者になる人だけが進むところだと思っていたので、PhDリクルート室の様々な支援によって多様なキャリアパスが用意されていることに驚きました。(丸田)

01. 博士課程ってなに?

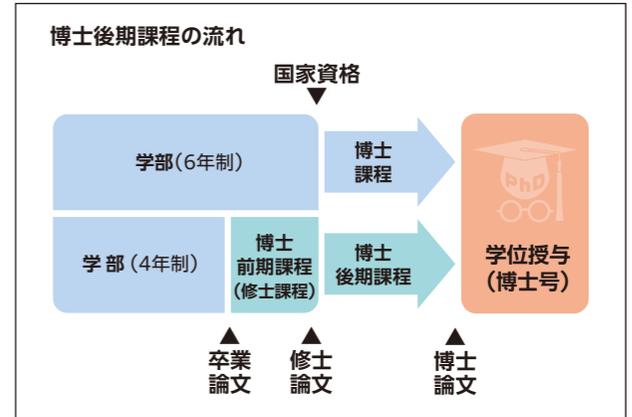
博士課程(新潟大学大学院における博士後期課程)は、最高学位である博士号を取得するための大学院の課程です。具体的な流れは右のようになります。

02. 博士課程に進むメリット

博士課程には、専門性を高めたり研究活動に打ち込んだりすること以外にも様々な魅力があります。今回はそのうちの2つについてご紹介します。

merit 1 / 課題を解決する力や切り拓いていく力が身につく

博士課程では、自身で設定した課題を基に研究テーマを決め、3年間みっちり研究活動に取り組みます。そういったなかで、自身で課題を設定し解決する力や新しいことを切り拓いていく力が鍛えられ、産業界の方々からも評価されることにつながります。



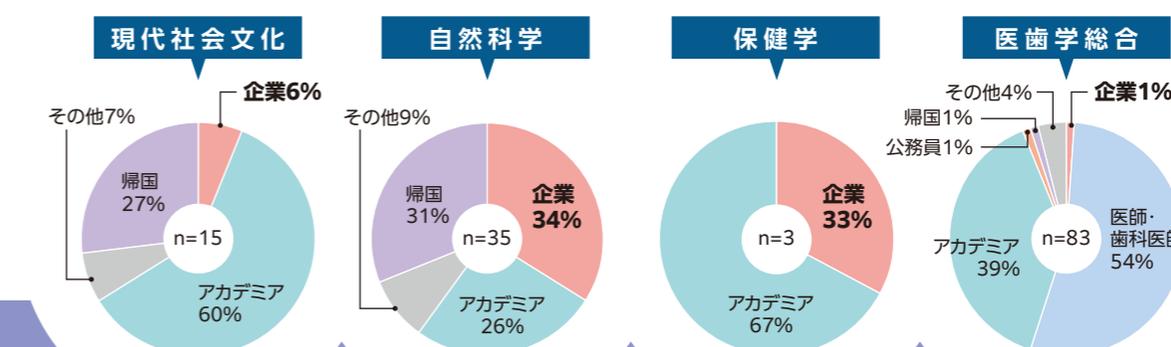
merit 2 / PhD(博士号)の学位を取得できる

やはりPhDを持っているのと持っていないのでは、アカデミアはもちろん、企業で働く際も、その人の専門性に対する信頼が大きく違ってきます。特に海外ではその傾向が顕著であり、グローバル化している現代社会でPhDを取得することは非常に大きな強みになります。

03. 就職先

博士課程修了後のキャリアは大きく2つに分けられます。まず1つは、**アカデミアへの就職**です。大学教員や研究所研究員、博士研究員(ポスドク)などとして研究活動に取り組みます。もう1つは、博士人材を求める**企業への就職**です。企業の場合、研究者だけでなく、医師や技術者、管理者など多様なキャリアパスがあります。各研究科の博士課程修了者の進路は以下のようになっています。

■新潟大学博士後期課程修了者進路(現職は外す)2023年3月末修了者 アカデミア/教員、大学職員、博士研究員 その他/アルバイト・未決定者・不明者



企業への就職の道も多い!



Q1. どのような方が相談に応じるのですか？

A. 最初に窓口で皆さんの相談相手になるのは大学の博士後期課程に在籍している2人の若手助教です。そこから相談内容に合わせてメンター教員やスタッフを紹介しています。研究・アカデミアの相談であればPhDリサーチサポート室の村山先生、産業界についての相談であれば産業界出身の弥富先生に、というようになっています。また支援金・奨学金といったことは事務局の方に対応していただけます。PhDリクルート室専任スタッフは5人ですが、いろいろな学部・研究科の先生方にも協力していただいています。



Interview

より詳しく「PhDリクルート室」について知るために運営スタッフの弥富洋子先生にインタビューさせていただきました。

Q2. 大学院生同士の交流の場はありますか？

A. はい、院生会というものがあります。これはPhDリクルート室と連携した組織で、役員をはじめ大学院生が活発に自主的な活動を行っています。学部生には同級生がたくさんいますが、大学院生になると研究室に1人であることが増え、相談相手がいないことがあります。そのため、院生会ではイベントや勉強会、情報交換などをして、院生同士の交流の場を設けています。コロナ禍での対面規制によって参加者が停滞していましたが、現在は対面規制がなくなり、参加者も増えています。



スタッフ感想

実際に博士課程の学生さんに話を伺うことで、博士課程についての知識が深まりました。貴重な体験でした。(長峰)

Q3. 今後開催予定のイベントはありますか？

A. 今年度は年度末シンポジウムの開催が残っています。その他の毎年行っているセミナーについては来年度に向けて準備中です。例えば、知識習得型の『キャリアマネジメントセミナー』や実践型の『ジェネリックスキルセミナー』を毎年開催しています。その他にも博士課程を経て産業界へキャリアを構築した先輩や、社会人博士を招く『大学院生のためのキャリアセミナー』も行っています。開催日が近づいたら大学のメールでも案内をします。学部生の参加も歓迎します！

キャリア相談の予約方法

件名 ● キャリア相談希望

本文 ● 所属、学年、お名前、相談内容

Mail ● phdrecruit@gs.niigata-u.ac.jp

(電話でも予約可)

博士課程についての相談や博士についてもっと知りたい方はPhDリクルート室を訪れてみてください！



「PhDリクルート室」って何？

総合教育研究棟D棟2階にあるPhDリクルート室ですが、主に5つの取り組みを行っています。

総合教育研究棟D棟2階

キャリアセンター

PhDリクルート室

教務課

第1食堂前広場から総合教育研究棟の学生玄関を入り右側の通路を進んでいくとあります！

学生玄関



キャリア相談

博士人材に対する産業界でのキャリア形成を支援するための相談窓口

就職活動を進める博士専用のキャリア開発個別相談窓口が開かれています。多くの同期生が既に博士前期課程(MC)修了で就職してしまい、同じく産業界に就職を考えている博士の仲間も周囲からは少なくなる状況にある博士後期課程(DC)学生や博士研究員(PD)のキャリア形成を支援しています。DC学生やPDは通年で就職活動ができるようになるため、学部生のような新卒一括採用とは異なるスケジュール・方法での情報収集及び就職活動が必要となります。



講義セミナー

産業界とはどんなところか、アカデミアと何が違うのか情報提供する

企業を知るための情報収集の場となる講義セミナーも開催されています。大学院や研究室では専門知識・研究スキルが鍛えられますが、社会で活躍するための汎用的なスキルを身につけることも重要です。例えば、大学院の研究は1人で実施することが多いのに対して、企業での実験研究のほとんどがチームで実施されるというように、アカデミアと企業では手段・手法・優先順位が異なるからです。そのためセミナーは研究以外の知識やスキルを獲得する場となっています。実は大学院生がメインターゲットではありませんが、ジェネリックセミナーなどは空席があれば学部生でも参加できます！大学のメールで案内が来た時には確認して、参加してみたいかどうか。

例：キャリアマネジメントセミナー ジェネリックスキルセミナー
大学院生のためのキャリアセミナー



マッチング

企業研究者や人事等と直接交流し、自身の適性や企業のニーズを知る

例：PhDリクルートフォーラム



企業訪問

企業研究現場見学や、自身の研究発表を通じて企業人と交流することで、業務のイメージを体感する

例：企業研究サイトビジット



インターン

実際に一定期間企業実務を経験することで、企業適性を知る

利用者には博士課程に進んでいる方だけでなく、修士課程の方や大学院に行きたい、博士になりたいという方もいます。PhDリクルート室にはサイトがあります。ぜひこちらをご覧ください！また博士課程の学生に必要な情報をジャンルごとに整理して公開している「博士ポータル」も運用中です。

<https://portal.phd.niigata-u.ac.jp/>

皆らしさが認められる場所を作りたい

大学生生活を送るうえで、やりがいや目標を持って活動している、輝く新大生を紹介するこのコーナー。今回は、子どもが地域でより健やかに過ごすことをめざして様々な活動を行っている「子どもスペースむんぼう」の代表、創生学部星千宙さんにお話を伺いました。

創生学部 社会文化学パッケージ4年
星 千宙さん
ホシ チヒロ

- 出身：山梨県。育ちは新潟(小1から)
- 好きなこと：猫、自然、自転車で遠出。(小千谷の片貝まつりに自転車でいった。)
- 新大の好きな場所：第二食堂前の広場

団体結成のきっかけとなった車庫の様子



取材中の様子

偶然が重なって始まった活動

— 団体の活動内容を具体的に教えてください。 —

毎週金曜日18時30分〜20時30分の時間に、地域の小学校一年生から高校三年生まで誰でも来て、大学生や学校の友達と自由に遊べる場を「教室むんぼう」として運営しているのが「子どもスペースむんぼう」の活動内容です。去年は近くの寺尾中央公園で自然の中で自由に遊ぶ活動を展開していた時もありました。「教室」とつきますが、勉強に限らず自由に過ごしていいスタイルです。

— 団体を結成した経緯を教えてください。 —

大学一年生の時、ちょうどコロナで授業も始まらず地元の友達とも遊べませんでした。その中で美家の車庫にたまたまあった木の板に、たまたまあった絵具で模様を描いていたら、それが机になりそうだなと思って。周りにキャンプ用の椅子を並べてみたら、車庫ならシャッターを開け放せば換気もいいし、人が集まれる場所になりそうだなと思いつきました。高校三年生のときにチェコのプラハに留学した際、物乞いとその周りの距離感を見てから貧困に興味があったことと、勉強を教えるのが得意だったことが重なって、この車庫で安価な学習塾をやりたいと思ったのが活動の始まりで

す。このことを掲示板アプリに載せたら、シングルマザー家庭の小学校四年生の女の子が来てくれるようになりました。規模が大きくなっていききました。団体を作ろうというよりは、「コロナ禍の偶然が重なって始まった感じですね。」

多様性のありかたと向き合う

— 印象に残っている活動やエピソードを教えてください。 —

実は引越して二回して今の場所での活動に至っています。一回目の引越しの際に、車庫で行っていた安価な塾としての活動よりも、地域の中に皆らしさが認められて人と人が交流するような場所を作ることが本当の自分の関心事なのだなと思って、自由と多様性をテーマに活動した時期がありました。ただ

「自由に過ごしていいよ」と子どもたちを招くと、小学校一年生の男の子が二人もいれば、その元気さによって、車庫で活動していた頃の名残でいた高校三年生の子はとも勉強なんてできない状況になってしまいます。このことがきっかけで、「同じ世代での棲み分けの多様性」と、同じ空間の中に生活と共にする形の多様性という二つの多様性があるよね」と運営側の学生の間で考え方が変化が起きました。子どもたちが自由に過ごすことについて、どのように捉えるべきなのかをみっちり考えた重要な時期だったと印象に残っています。

— その時期以降の活動にどのような影響を与えましたか？ —

棲み分けの多様性が良いのか、あるいは、同じ空間の中の多様性、どちらが良いのかという議論から、子どもたち

— やりがいは何でしょうか。 —

「自由に過ごしていいよ」といった中で、子どもたちが楽しそうにしている姿の一つ一つがやりがいです。またその楽しそうな姿は、能動的に働きかけて遊びを創る運営側の学生の営みがあったからこそのものであることもいいなと思います。

— 今後の目標を教えてください。 —

卒業後は社会福祉士の資格をとるための専門学校に一年間通うつもりです。というのも、活動をしていく中で「これって福祉みたいなことなのではないか」という考えが出てきて、福祉について学びつつ手に職をつけたいと思ったからです。私は、未来は過去の経験や考えを反芻し積み重ねていった結果勝手にいってくるものだと考えていて、実際「むんぼう」の活動も過去に自分が考えていたことの延長線上にあると思っています。そのため、まずはその結果としての未来を引き寄せるための一年間を過ごそうと考えています。資格の勉強をしながらこれまでの活動を振り返って、自分は何をしたいのかを考える期間にする予定です。

— 新大生へメッセージをお願いします。 —

生きていく中で経験する様々な葛藤を大切にしてほしいです。葛藤する中

で自分自身の理解が深まってきたり、その葛藤が後々他者や社会のためになっていたりするため、葛藤は面白くて良いものだとは私には思っています。葛藤を避けてレールに乗った安泰な過ごし方もありますが、その安泰は自分の人生で面白いのか、その安泰の裏で苦しんでいる人はいないのかと考えることが大切だと思います。葛藤する自分にもどかしさを感じる時間も、今の自分を作る重要な時間と考えられると思います。

スタツフ感想

星さんのじっくり考えて大胆に行動する力が魅力的だと感じ、とても勇気をいただきました(清野)

「葛藤を大切に」という星さんの生き方は、自らのアイデンティティを見失いがちな就職活動の時期にも活きてくる考え方だと思います。(海野)

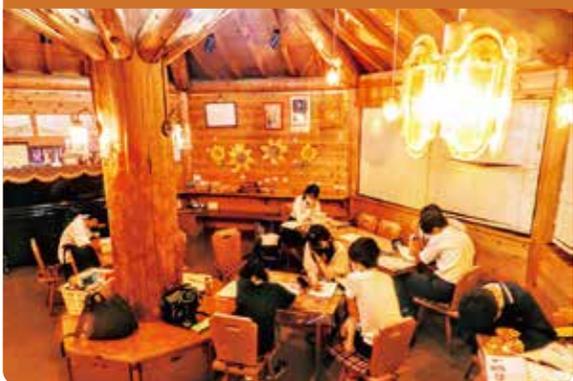
活動の始まりが偶然の積み重ねというのが意外でした。自粛期間のようになかなか動けない時でも何か考え実現しようと思いつけることは大事だと思います。(青木)



「むんぼう」の名の由来

むんぼうの名前は「moonbow(月虹)」が由来になっています。車庫で塾をしていた時から「多様性」についてテーマにしたい気持ちがあり、その象徴である虹から連想しました。活動時間が夜だったこと、虹より月虹の方が控えめでゆったりした感じがあって好きだったこと、ひらがなにするとかわいいなと思ったことからこの名前にしました。

むんぼうは、一人ひとりの個性がありつつも、皆が集った全体としても良い「空間」や「地域」になれば良いなと思っています。



自分の居場所 卒業生編

●大学院自然科学研究科博士後期課程修了 森田悠介さん

将来どんなことをしたいか迷っている新大生に向けて、社会で活躍する卒業生から話を聞き紹介するこのコーナー。今回は大学院自然科学研究科博士後期課程修了後、弁理士法人牛木国際特許事務所で活躍する森田悠介さんにお話を伺いました。



弁理士法人
牛木国際特許事務所

行動することで 見える未来がある

プロフィール
森田 悠介さん
モリタ ユウスケ

新潟市出身。2013年に新潟大学で博士(理学)の学位を取得後、インターンシップをきっかけに同年11月に牛木国際特許事務所に入所。現在、国内・外国の特許実務、特許翻訳に従事している。

企業情報
弁理士法人
牛木国際特許事務所
1933年に新潟県長岡市で創業。現在は東京・虎ノ門と新潟市に拠点を置き、企業や大学、中小企業や個人の特許・実用新案・意匠・商標出願から、取得した権利の有効活用まで総合的にサポートしている。

な技術的なポイントを再発見したとき、二回目はそのポイントについてお客様に「その通りだ。素晴らしい！」と言われても良かったとき、三回目は発明の素晴らしさが特許庁に伝わって特許査定が得られたときです。

Q 学生時代の話

探検部に所属し、山スキーや沢登りなどの登山にのめり込みました。「この先はどうなっているのだろうか」という好奇心に導かれて、気が付いたら山頂にいるという感じです。また、部活の後輩二人と一緒に、家賃二万円程で六畳(十ベッドスペース二畳)の部屋を、男三人でルームシェアしていました。探検部の仲間が来てくれるので楽しかったです。今思えばこの頃の貧乏生活が、人生を最も謳歌していたときだったように思います。

Q 大学院への進学を決めた理由

物理は奥が深く、学部生の時は受動的に知識を吸収するばかりで突き詰



新大生へのメッセージ

「一寸先が闇なら二寸先は明るい未来」宇多田ヒカルの「人生最高の日」という曲に出てくる一節です。今は、VUCAの時代ともよく言われるように、将来を予測することが困難になっているように思います。それでも、行動することで見えてくる明るい未来があるかもしれません。

められなかったもので、何を吸収して何をアウトプットするかを全部自分で考えるといったような能動的な学びができる大学院に進学しました。

Q 大学院に進学してよかったこと

未知の問題に対してどう臨めばよいかを考えるクセができたことです。研究は、教科書のように答えが用意されているわけはありません。そのため、自分の仮説が正しいかどうかは自分でチェックする必要があります。このように研究という答えのないものについて日々考えていたことが今の仕事に役立っているように思います。また、学部よりもより実践的なスキルが身に付きました。

Q お仕事に活かしている学生時代の経験

研究室で培ったノウハウは全て余すことなく役立っています。論文の読み書きは、そのまま特許出願明細書の読み書きに転用できるスキルだと思っています。研究者・開発者の苦勞を文章として

Q 現在のお仕事の内容について

弊所では特許出願の代理業務を行っています。研究者や企業にとって、発明した技術を世に出すにはリスクが伴います。そこで特許権を取得することで技術を独占し、権利侵害から保護することが可能です。

海外から日本へ、日本から海外へ出願する依頼が多く、私はその際の翻訳業務、中間処理を担当しています。国内外の法律の違いを見て調整しながら書類を翻訳し、中間処理を行います。他の法律関係の業務と違い、特許出願には専門的な技術を理解することが必要です。博士課程での経験を存分に活かし、業務を行っています。

特許庁に伝えることがこの仕事です。研究者、開発者に共感し、同じ視点や目線で話ができたり、研究の苦勞を身に染みて分かっていたりする人ほど、良い文章が書けるのではないのでしょうか。

また、海外展開を考えている企業は現地の特許権を取得する必要があります。その際、出願書類を英語や中国語などの現地語で準備する必要があります。語学力が大活躍します。特に博士課程の学生は、情報収集から研究成果の発表まで、普段の活動の多くを英語で行っていると思います。研究のやり方を知っている語学力の高い人は、研究分野に関係なく、我々の業界では即戦力として活躍できると思います。

Q これからの目標

一生をかけて仕事の幅を広げていきたいです。現在、外国人のお客様相手に特許業務を行っています。これから新潟を含め国内のお客様相手にも質



Q 仕事を選んだきっかけ

博士号取得の見通しが立った頃に仕事探しを始め、弊所を見つけました。インターンシップに参加する中で博士課程の専門性と語学を役立てることができると感じ、所長に就職を直談判しました。インターンシップでは外国出願の業務を行いました。その時の働きが上司に評価されたのだと思います。

Q やりがいを感じる瞬間

強く広い特許を特許庁に申請するときは、必ずと言ってよいほど特許庁に出願を拒絶されます。ただし特許庁の見解については反論することができ、発明の素晴らしさを明示し、発明のポイントを絞ることで、特許庁に再考を求めることができます。その際に、やりがいを感じる瞬間が三回あります。一回目は特許権を得るために必要

の良い知財サービスを提供できるようになりたいと思っています。

そして、自分が「初心者」でいられるような分野の違う業務に少しずつ関わるようにして仕事の「ワクワク」を忘れないように心がけています。私の場合、専門は物理ですが、バイオ・化学・機械・電気など、自分で分野にハードルを設けずにチャレンジしています。発明はそもそも、一見して「違い」のように見える技術分野が上手く融合することで生まれることが多いように思いますので、分野の壁を越えて考える柔軟性が大切だと感じます。

新大の好きな場所

工学部棟の非常階段
海が見え景色が良い上に誰も来ないので、昼寝や読書をしています。

「スタツプ」感「想」

森田さんのお話を聞き、弁理士の業務は文系の仕事であるという固定観念が覆されました。博士課程での経験を存分に活かしていると聞き、就職活動には視野を広くして臨むことが重要なのだと感じました。「(中略) インタビューを通して、お仕事に強いやりがいを感じることが伝わってきました。特に「初心者」であることを恥ずかしがらず、さらに仕事の分野を広げていこうとする姿勢が印象的で、私も見習いたいと感じました。(鈴木)

インタビューの様子



ゼミ・研究室

法学部

宮森ゼミ



宮森 征司 准教授
ミヤモリ セイジ

プロフィール／長野県松本市出身。1988年生まれ。一橋大学法学部出身。一橋大学法学研究科で修士、博士課程を修めた後、長野県立大学で助教を経て、新潟大学に着任。

く学生が稀にいます。また行政法ゼミでは、幅広いテーマを研究しているという点も、面白さの一つです。今年のテーマの例をあげると、原子力発電所の事故後の避難の問題・学校事故の対応・情報公開法についてなど、行政が関わっていれば研究対象になるので、私自身も学生の研究から学ぶことがあります。

ゼミではどんなことをやっていますか？

今の時期、三年生は判例研究を行っています。四年生は卒業論文に励んでいます。学生は各々興味関心があるものを自分で選び、それをベースに研究しています。例えば、企業誘致のあり方について研究している学生がいます。企業を誘致するときには行政はどのような役割を果たすべきかという問題であり、政策変更で今まで関係を築いてきた行政と企業との関係を断ち切ってしまうといいのか、企業と行政の関係をよりよくするにはどうすべきかを法や政策から紐解いていくというような研究をしています。

ゼミで大事にしていることはありますか？

三つあります。一つ目は学生が自身でテーマを選ぶことです。自分が興味関心を持ったものを、責任を持って最後までやり遂げるという経験の有無が社会に出てからは重要になってくるのではないかと思います。二つ目は指導方法です。卒業論文を書くためには、文章を書く力が必要になってくるので、個別に細かく指導するよう心がけています。三つ目は環境づくりです。法律に関わることなので議論が固くなりがちですが、意見が言いづらくならないような明るく楽しい雰囲気を心掛けています。

今まで担当した学生の研究で印象に残っているものはありますか？

一昨年の学生の研究が印象に残っています。彼は東北大学のロースクールに進学しましたが、判決の効力と理由の提示という難しいテーマを扱っていました。新潟大学に来てから驚いたのは、大学院レベルに遜色ない卒業論文を書いて卒業している

先生の研究内容を教えてください。

自治体が提供する公共サービスの経営面に関して、行政法学の観点から研究しています。例えば水道はほとんど自治体が担っていますが、これからの人口減少、財政難を考えるとこの公共サービスが維持されなくなっていくことは目に見えています。官民連携、公的機関と民間事業者が協力して公共サービスを提供することに関わる法律問題について研究しています。

なぜ今の研究をされているのでしょうか？

学生の頃から広い意味での民間化が広がっていました。行政と民間の間」の領域の研究に携わってきましたが、位置づけが曖昧なテーマに法的な視点からアプローチしてみたいという学問的関心はずっと通底していますね。

先生の学生時代について教えてください。

大学生活ではサークル活動に熱心に取り組んでいました。中高と吹奏楽部で大学でも吹奏楽のサークルに入りました。実は法学部の講義にあまり興味を持っていませんでした。なぜこんなことを議論しなければならぬのかと思っていました。二年生のときに

新大生へのメッセージをお願いします。

あまり偉そうなことは言えませんが、大学生活は悔いなく過ごすことが大事だと思います。新大生は真面目すぎる印象もあります。時には真面目の殻を破ったほうが勉強になるし、気も楽になると思います。大学生の時間はとても短いので自分で納得のいく楽しい大学生活を過ごしてください！



ゼミの様子

法学部 宮森ゼミ ゼミ生に聞いてみました！

このゼミではどのような研究が行われていますか？

- 情報公開法がある中で、インカメラ審理と呼ばれる、裁判官だけが非公開で証拠を調べられる制度があるのですが、これを法律として明文化することができるかどうか、という研究を行っています。(4年生)
- 企業誘致の在り方というテーマで活動しています。もともと行政法の議論では、行政や企業など様々な主体に注目するのが面白いと思っていました。(4年生)

このゼミを選ばれた理由は何ですか？

- 特殊法人への就職を視野に入れているので、特殊法人に関する知識を身に付けられたいなと思い、このゼミを選びました。(3年生)
- 行政法のように、せっかくなら大学でしか学べない内容を学びたいと思っていました。また、2年生の頃に取った授業のほとんどが宮森先生の授業で、親しみもあったので選びました。(4年生)
- 行政法は他の法律に比べて、その時の社会事情を反映しているものも多く、面白く感じたので選びました。(4年生)

どんなときにこのゼミでよかったと感じますか？

- 先生が仰っていた通り、自分でテーマを決めるということもあり、先生のフォローを受けながら、自分の学びたいことを学べるのがとてもよかったと思っています。(3年生)
- 研究テーマを見定めるまでに悩んでいたのですが、ダメ元で先生に相談したところ、いろいろ拾い上げてくださり、今の研究につながったのでとてもよかったと感じています。(4年生)

このゼミで得られたことは何ですか？

- 社会人としての基礎に近いものを学べたと思います。提出期限を守ること、プレゼンテーションの仕方、報連相の大切さなど社会人になってからも大切にすべきことを学ぶことができました。(4年生)
- 私たちの世代はずっとオンライン授業だったので、一人一人がテーマを決めて、発表し、話し合いをするという機会がゼミでできたのはとても良い経験になったと感じています。(4年生)

スタッフ感想

● お話しして下さる先生のお人柄と、それに応えるゼミ生の方々の雰囲気をみていて、普段から良い雰囲気で活動されているゼミなのだろうなと感じ、私自身もとても楽しむことのできた取材でした。なかなか他学部のゼミ生からお話を伺う機会がないので、とても貴重な経験をさせていただき、嬉しく思っています。(丸山)



書体ってなに?

書道には「楷書体」「行書体」「草書体」「隷書体」「篆書体」の5つの基本的な書体があり、新大書道同好会ではそれぞれが自分の好きな書体に取り組んでいるそうです。特に「楷書体」や「行書体」を書いている部員が多いそうです。

今回お話を伺った鈴木さんは「隷書体」がお好きで、その「隷書体」は大学の正門前にある「新潟大学」の石碑に使用されています。書道は想像以上に、私たちの身近なところに存在していることがわかりました。また、鈴木さんは書体や配置を自由に考えて作成する「創作」を行うことも多いそうです。自分のしたいことや感情などを文字で表現することはとても楽しそうだと感じました。

隷書体

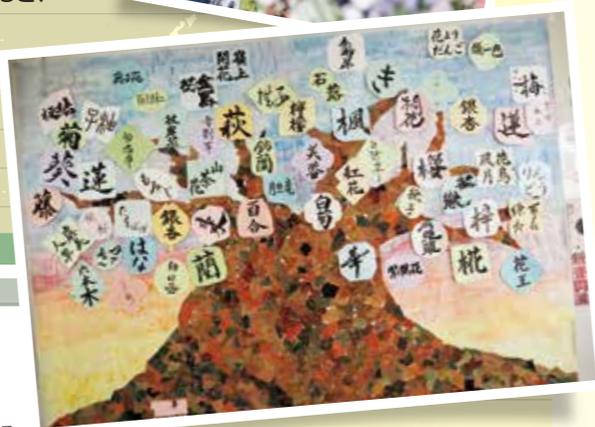
年に2回の作品発表!

新大書道同好会では、作品発表の機会を年に2回設けているそうです。1回目は10月に行われる新大祭、2回目は毎年2月末頃に開催している「青嵐展」です。

展示会では、個人作品だけでなく、共同制作作品の展示も行われています。2022年2月に開催された第一回青嵐展では、展示会名にちなんで、「嵐」や「五十嵐」、「サイクロン」といった、「嵐」や「風」を連想させる言葉が書かれた共同制作作品を展示したそうです。また、昨年度の新大祭では、折り紙で作った木の幹に、文字を書いた紙を花のように貼り付けて制作した作品が掲示されました。この作品は部員だけでなく、来場者のみなさんご協力のもと、参加型の作品として完成したそうです。書道というと、一人で黙々と取り組むイメージがありましたが、個人の作品だけでなく、協力して共同制作作品を作ることもできると知り、新大書道同好会の活動の幅広さを感じました!

集中力・表現力を鍛えたい方、
長く続けられるような
新しい趣味が欲しい方に
おすすめです!

★ 雰囲気チェッカー ★



新大広報学生スタッフが、新大の部活・サークル活動にチャレンジ!レポート!
略してチャレポ!! 今回は新大書道同好会代表、鈴木妃奈乃さんにお話を伺い
ました♪

新大書道同好会へようこそ!

部活・サークル情報

- 部員数: 52人
- 活動日時: 月・水・金 16:30~18:00
- 活動場所: 教育学部G棟2階
第一書道教室、作品制作室
- X (旧Twitter): @shindaishodobu
- Instagram: @shindai_shodo_dokokai



昨年の青嵐展での集合写真

Q 普段はどのような活動をしていますか。

年に二回開催する展示会に向けて作品を制作しています。一人一人が集中して作品と向き合っている時間もあるけれど、部員同士で和気あいあいとしやべりをする時間もあります。書道というと一人で黙々と半紙に向かうイメージが大きいかもしれませんが、穏やかな雰囲気での活動をしています。

Q 初心者・経験者の割合はどのくらいでしょうか。

習い事や部活などで書道をやっていた経験者がほとんどですが、初心者であっても入会に際しての心配はいりません。昨年度末には書道未経験の留学生複数人の入会があり、期間限定で一緒に活動をしていました。また、作品制作用の半紙や大きな紙、墨などは部費で購入しているため道具の心配もありません。

Q 書道同好会での一番の思い出は何ですか。

やはり、展示会が一番の思い出です。たくさんの方に作品を見ていただける機会が部員にとって非常に励みになります。中でも、歴代の先輩方が作品を見に新潟に帰ってきてくださった、第二回青嵐展が心に残っています。私は人と人とのつながりを大切にしたい、「帰ってこれる場所・立場や世代を超えて対話が生まれる場所をつくりたい」という想いがあり、展示会を通じてその想いが叶ったことがとても感慨深かったです。書道という一つのものを通して様々な言葉が交わされ、温かなつながりを感じた瞬間はとても尊いものでした。

Q 書道同好会の良さ・魅力を教えてください。

作品を書ける時間と場所が持てることや書道で繋がる仲間ができることがこの同好会の良さだと思います。また、好きなものを好きなように書くことができ、それぞれの書への向き合い方を尊重し合える雰囲気があることが魅力です。展示会に向けた制作や準備は大変ですが、ご来場いただいた方に作品を見ていただき、お言葉をいただくと、日々の努力が報われると感じています。



作品制作の様子



特集
博士課程のことは
PhDリクルート室まで! P.01 >

今回、特集を組むにあたって、実際にPhDリクルート室にお邪魔して取材させていただきました。初めて入るのでとても緊張していましたが、沢山お話してくださり、質問にも丁寧に答えて下さって、とても興味深いお話が聞けました。

Interview!! 自分の居場所
～学生編～ P.05 >

星さんはチェコに留学した際に聞いた「働かずふらふらしている物乞いの人が貧困なのは妥当だ」というホストファミリーの意見が印象的だったそうです。ここから次第に貧困の周りのあり方に対する関心が高まり、今の活動に繋がっていきました。過去の経験や考えをじっくりと見つめる星さんの秘めた熱意を感じました。



チャレポ!!
新大書道同好会 P.11 >

昨年に引き続き、第三回青嵐展が開催される予定です。

- 会場:新潟県民会館1階 展示コーナー
- 日時:2/24(土)10:00-17:00
2/25(日)10:00-16:00

書道同好会の想いがこもった作品が多数展示されます。入場無料、予約不要ですのでぜひ足を運んでみてください。

このコーナーでは、新大生のための簡単なレシピや食に関するお役立ち情報をご紹介します。今回は、冬にぴったりのフライパンでできるキッシュのレシピをご紹介します。食パンを使って簡単に作ることができるのでぜひ試してみてください!



キッシュ



材料(フライパン直径20cm)

- 《卵液》
 たまご……………3個 ……88円
 牛乳……………110ml ……30円
 シュレッドチーズ……………60g ……136円
 コンソメ……………小さじ1
 コショウ……………適量
- 食パン8枚切り……………3枚 ……29円
 玉ねぎ……………1/4個 ……15円
 ベーコンブロック……………60g ……138円
 ほうれん草……………2株 ……45円
 しめじ……………60g ……60円
 バター……………10g
 オリーブオイル……………適量
 コーン……………適量
 シュレッドチーズ……………適量
 ミニトマト……………適量

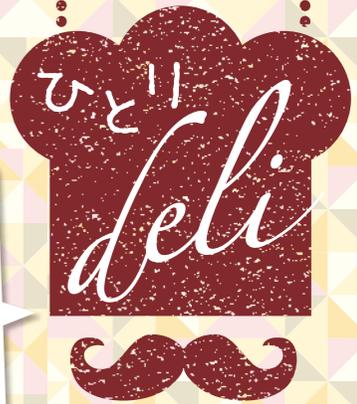
(参考価格) 約541円
(調味料除く)

作り方

事前準備 ……………

- 1 《卵液》を作る。材料を全て混ぜ合わせる。
- 2 食パンの耳をカットし、食パンは半分に切る。
- 3 玉ねぎ、ベーコン、ほうれん草、しめじを一口大に切り、ボウルに全て入れてバターを加えて600wで4～5分加熱する。
- 4 フライパンにオリーブオイルをひく。食パンを隙間なくしき、3の野菜と1の卵液を入れる。
- 5 コーン、シュレッドチーズをまぶし、半分に切ったミニトマトを並べて蓋をして極弱火で20～25分、中まで火が通るまで焼く。

かんたんレシピをご紹介します!



コラム

キッシュのようにペストリー系の生地を器にし、中に具材を入れて焼き上げるという調理法は紀元前～新石器時代には存在していたといわれています。キッシュの直接的な起源は中世ヨーロッパですが、今は世界中で楽しられている料理です。また、今回はトマトやほうれん草などの野菜を使用しましたが、冬に旬を迎えるカボチャや小松菜を使用すると、季節を感じることができ、より一層おいしく仕上がります。皆さんもぜひ試してみてください!

編集後記

いよいよ寒さも本格化してきて、新潟の冬の厳しさを実感しますね。さて、今号の特集はPhDリクルート室です。博士後期課程に関するあれこれをまとめていますよ。また、ひとりdeliで紹介しているキッシュもおすすめです。これで厳しい冬と一緒に乗り越えましょう！

新大広報編集長 丸田 勝大

あつという間に猛暑の夏が過ぎ、厳しい寒さの冬がやってきました。今号で取り上げた書道や料理など、室内で楽しめることにチャレンジしてみるのも楽しそうです。

新大広報は今夏から7名の学生スタッフが新たに加わりました。これからも新大に関する情報や役立つ知識をお届けできるよう、学生スタッフ一同頑張ります！

新大広報副編集長 長澤 真佳

学生スタッフ

人文学部3年 長峰 ひかる	法学部2年 角 梨々華
人文学部3年 長澤 真佳	創生学部2年 高村 緋鞠
人文学部3年 鈴木 明莉	農学部2年 丸山 千紗
人文学部3年 海野 夏輝	農学部2年 河野 萌愛
人文学部3年 清野 菜月	法学部2年 竹田 実未
教育学部3年 丸田 勝大	人文学部1年 青木 亮太郎
人文学部2年 桑島 花音	人文学部1年 川岸 ララ菜
人文学部2年 渋谷 ののか	教育学部1年 下室 小雪
人文学部2年 石川 裕太郎	経済科学部1年 廣瀬 勇実

職員スタッフ

学生支援課 小林 理子	広報事務室 反町 優里
----------------	----------------

個人情報の取扱いについて

■新大広報では皆様からお預かりした個人情報につきまして、責任をもって管理することをお約束いたします。
■アンケートや誌面へのご意見、掲載希望他、お預かりした個人情報は新大広報の企画の参考にさせていただきます。この目的以外に使用したり、第三者に提供したりいたしません。

2023年冬号 [No.228]

2023年12月発行

編集・発行 / 『新大広報』学生スタッフ
新潟大学学務部
新潟大学広報事務室

印刷 / 株式会社印刷所



新大広報 公式X (旧Twitter)

もっと新大広報を知りたいあなたに！
新大広報公式X (旧Twitter) アカウントをご紹介します！紙面に載せきれなかった取材の裏側や、制作の様子を随時、つぶやいていきます。
さらに、動画もポストしています！
ぜひ、フォローしてください！



スタッフ
募集!!

私たちと一緒に新大広報を作りませんか？

新大広報では随時、学生スタッフを募集しています。企画から、取材、記事の作成、編集まで学生が主体となって活動しています。

<応募方法>

下記のメールアドレス宛にて

- ①学部・学年・学籍番号・氏名、
- ②「学生スタッフ希望」と書いて送信してください。

新大広報編集室
nu-press@adm.niigata-u.ac.jp



新大広報 Back Number

新大広報のバックナンバーは新潟大学ホームページで公開しています。また、学務部学生支援課窓口で受け取ることもできます。

新大広報

検索



Follow us!

新大広報公式
X (旧Twitter)



新潟大学公式SNS



X (旧Twitter)



Instagram



Facebook



新大アプリ



iPhone



Android

新潟大学ホームページ

<https://www.niigata-u.ac.jp/>